

聖土曜日・復活の徹夜祭

第一朗読	創世記 1・1、26～31a
第三朗読	出エジプト記 14・15～15・1
第七朗読	エゼキエル 36・16～28
使徒書の朗読	ローマ 6・3～11
福音朗読	ルカ 24・1～12

2025.4.19 18:30 ミサ
カトリック高円寺教会
イエズス会 アン助祭

共同体の皆さん、主の復活、おめでとうございます。

主イエスは十字架でかけられ、死んで復活されました。そして今も、わたしたちとともに生きておられます。これこそが、わたしたちキリスト者の信仰の土台です。この復活の信仰があるからこそ、わたしたちはもはや恐れや失望に囚われることはありません。むしろ、わたしたちの心には希望が満ちあふれ、どんなに苦しみに満ちた現実の中でも、一つの信仰共同体としてともに歩むことができるのです。

今日の復活徹夜祭の典礼は、まさにその希望を実感できる恵みの時です。わたしたちは暗闇の中でこの徹夜祭を始めました。この暗闇は、死や罪、悪が支配するこの世を象徴しています。しかし、その暗闇の中に灯された復活のろうそくが、すべてを変えました。復活された主の光が輝くとき、闇は退けられます。この光が、わたしたちの中に、そしてこの世界に、はっきりと輝き始めたのです。だからこそ、復活の賛歌の中で、わたしたちは喜びに満ちて神を賛美し、救いのわざをイエス・キリストを通して成し遂げてくださった神に心から感謝するように招かれています。

皆さん、この復活のろうそくは、今ここにおられる主イエス・キリストご自身を表わしています。このろうそくには5つの釘が打たれています。それは、十字架にかけられたイエスの苦しみと死を思い起こさせますが、同時に、その方が復活し、今もなお人類の光としてわたしたちの中に生きて働いておられることのしるしでもあります。かつてイエスご自身が「わたしは世の光である」（ヨハネ 8・12）と教えられました。今、この言葉が、この復活のろうそくを通して、わたしたちの目の前に実現のものとなっています。

先ほど朗読された出エジプト記では、神が火の柱の中に現れて、ご自分の民であるイスラエルの人々の前を進み、彼らを海や荒れ野を渡らせ、乳と蜜の流れる約束

の地へと導かれました。同じように今も、父なる神は世の^{まこと}真の光である復活主イエス・キリストを通して、わたしたち一人ひとりの歩みに寄り添い、導いてくださっています。ですから、どんなに困難な現実や苦しみに満ちた日々でも、主がともに歩まれることをより深く体験する恵みを願い求めましょう。その神の現存は、きつとわたしたちの力となることでしょう。

とはいえ、皆さん、このろうそくはやがて燃え尽きるでしょう。では、この復活の光はどうでしょうか？ これも消えてしまうのでしょうか？ いいえ、決してそうではありません。復活イエスがもたらされた光は、永遠に輝き続けます。そして、その復活の喜びは決して尽きることがありません。今日の復活徹夜祭の典礼、特に光の祭儀の中で、その確信をはっきり表現しています。先ほど侍者たちは復活のろうそくからイエスの光をとり、それぞれの小さなろうそくに分け与えました。このようにして、わたしたち一人ひとりが復活されたイエスの火を受け取り、救いの光を身に帯びているのです。さらに、この火を受け取ったわたしたちは、ただ自分だけの光として留めるのではなく、他者と分かち合うように招かれています。ちょうど今日のルカ福音書に登場した女性たちがそうであったように。

今日、ルカ福音書では、ルカは週の初めの日の明け方にイエスの墓を訪れた女性たちの姿を描いています。彼女たちは、安息日が終わるのを待ち、イエスの遺体に香油を塗るために墓へ向かいました。これはイエスへの深い敬意と愛に満ちた行動でした。しかし、彼女たちはまだ知りませんでした。墓に納められたその遺体はもはや過去のもの、イエスは復活され、そこにはおられなかったのです。

彼女たちに告げられた言葉は、「なぜ、生きておられる方を死者の中に探すのか？」という問いかけでした。これは、主イエスを過去の記憶として自分の中に留めるのではなく、外に出て生きておられる主を探し、主と出会うように促される言葉です。

「なぜ、生きておられる方を死者の中に探すのか？」——実は、この問いは、わたしたちにも向けられている言葉です。自分の生活の中だけで主を探す——それは、復活イエスに出会う道ではありません。恐れずに出て行きなさい。主は生きている神であり、今ここに、そしてわたしたちの周りの兄弟姉妹の顔の中に、日々耳にする物語の中に、戦争や暴力、病気、飢餓、圧政に苦しむ人々の中におられると、わたしたち一人ひとりに教えられています。

最終的に女性たちは復活イエスに出会うことができたでしょう。この出会いによって、彼女たちは、自分自身を新たにし、復活の喜びを告げる者となったのです。イエスの復活は、単なる個人的な慰めに留まるものではありません。それはわたしたちの心を変え、平和を築く者、仕える者として、自己を超えて他の人々に手を差し伸べるよう動機づける力です。女性たちは主に出会い、その喜びを携えて弟子たちのもとへ走りました。同じように、わたしたちもまた、復活の喜びの証人として生きるように招かれているのです。

共同体の皆さん、今夜わたしたちはともに復活の徹夜祭を行います。どうか、この聖なる行いによって、復活の光にわたしたちが導かれ、復活の喜びと希望が心に満ちあふれるように。そして、わたしたちの家庭、社会、職場において、愛と信仰の行いを通して、復活の福音を証しすることができるように、心を込めてともに祈りましょう。

ミサ説教はカトリック高円寺教会ホームページの「ミサ説教」のページにも掲載されています。

PC <http://www.koenji-catholic.jp/cgi-bin/wiki/wiki.cgi>
携帯 <http://www.koenji-catholic.jp/mobile/>